

## 「未来を築く子どもの学力向上協創プロジェクト」 平成25年度第2回推進会議の概要について

「未来を築く子どもの学力向上協創プロジェクト」の平成25年度第2回推進会議を、平成25年9月25日(水)に開催しました。

第2回推進会議には、7名の委員のうち、6名の委員にご出席いただくとともに、会議の進行を補助するファシリテーターとして国立大学法人三重大学教育学部教授の山田 康彦氏にご出席いただきました。

なお、第2回推進会議の概要は、以下のとおりです。

### 「未来を築く子どもの学力向上協創プロジェクト」委員及びファシリテーター

※敬称略、50音順、カッコ書は役職

石川 正浩(サポーターいっちゅう 事務局次長兼広報部長)

太田 浩司(三重県PTA連合会 顧問)

田尾 友児(三重県立紀南高等学校 学校運営協議会 委員)

竹内 勇夫(伊勢市立小俣中学校 校長)

西岡 慶子(株式会社光機械製作所 代表取締役社長)

※西岡委員は、欠席。

宮路 正弘(三重県立飯野高等学校 校長)

山田 忍(スクールカウンセラー)

ファシリテーター

山田 康彦(国立大学法人三重大学 教育学部 教授)

### ＜推進会議の進行概要＞

会議の大まかな進行は以下のとおり

開会 15:00

- ・教育長あいさつ
- ・自己紹介(山田委員)
- ・事務局による資料の概要説明  
「平成25年度上半期の取組の評価と平成26年度の取組方向」  
「平成25年度全国学力・学習状況調査の結果」

プロジェクト推進についての意見交換

- ・本年度の展開等について意見交換を実施

次回(第3回)の開催予定

閉会 17:00

(山口教育長あいさつ、県事業の説明)

冒頭、山口教育長から委員の皆さんに、本日の会議の開催趣旨や中教審における議論等国の動きについて説明するとともに、平成25年度全国学力・学習状況調査結果を県教育委員会としても重く受け止め、しっかり取り組んでいくこと等を説明しました。

また、第1回会議を欠席された山田委員から自己紹介をしていただきました。



その後、事務局より資料に基づき、「平成25年度上半期の取組の評価と平成26年度の取組方向」及び「平成25年度全国学力・学習状況調査の結果」について説明しました。

プロジェクトで挑戦する4つの実践取組

「県民総参加による学力の向上」

「地域に開かれた学校づくり」

「教職員の授業力向上」

「安心して学べる環境づくり」

### （プロジェクト推進についての意見交換）

続いて、山田教授の司会によりプロジェクトの推進に向けた意見交換を行いました。

各委員からは、日頃の活動を通じて感じる課題や子どもの学力向上に向けた本年度の展開等について、意見や提案をいただきました。

#### 委員からの主な意見

・東北の学力が高い要因には、家庭で保護者がコミュニケーションをとりながら、学習している状況があると考えられる。保護者がどれだけ子どもに愛情を注いだかで学力が決まることも、要素としてあるのではないか。三重県は通塾率が高いが、学力は低い。通塾させることで学力が向上すると安心してしまう保護者がいることは反省すべき点として、他県のデータも示しながら、PTAとして保護者に伝えていきたい。

・全国学力・学習状況調査の結果以外にも、原因をしっかりと分析すべきではないか。



・新採教員の中には、しっかりとした発話ができなかったり、板書の文字が小さくて

読めなかったりと、授業の基本的な部分が身につけていない人が多い。

・学校現場での授業のめあての確認や学習内容の振り返りが少ないように感じる。まずできることから始めてはどうか。

・講師については、授業改善を行う機会が限られていることから、正規教員と同様に、研修する機会をもっと充実したほうがよいのではないか。



・小学校低学年の段階で、授業をしっかりと受けるための基礎を身に付けさせる必要がある。また、体幹が整っていないために椅子にきちんと座れないなど、年齢相応の発達をしていない子どもが多い。保育園や幼稚園、家庭で体を動かす機会が少ないのではないか。

・幼稚園や保育園では、教育活動が十分でない。また高校では、生徒の学力に幅があり、基本的な授業態度から問題の生徒もいる。小・中・高校を通じた全体を考慮すると、小学校低学年にターゲットを絞って重点的に投資して、対策を立てていくことが必要なのではないか。

・子どもがどこで意欲を失っていくのか、その節目をしっかりと把握し、どう乗り越えていくのか考えていく必要がある。

・自己肯定感の低い教員が多く、それでは子どもの自己肯定感も高まらない。教員と子どもの両方が達成感を味わう機会が重要である。

一身田中学校においては、ナイトスクールや地域の祭り等を通して、自己肯定感を高めることができていると考えるが、こうしたことが最終的には学力向上につながるのではないか。

・スマートフォンの保有率が高く、集中できない子どもが多い。中学生くらいまでは、スマートフォンを持たせないようにすべきではないか。

### 次回（第3回）の開催予定

次回（第3回）推進会議は、本年度1年間の取組の成果の確認と検証及び翌年度の具体的な取組について意見交換を行うため、平成26年2月18日(火)に公開で行う予定です。